

【大和市】

校務DX計画（令和7年3月時点）

1. 現状と課題

本市においては、統合型校務支援システムの導入や、デジタル保護者連絡ツールの導入、教職員向け研修のオンライン開催、アンケート等の汎用クラウドツールの活用、教員への1人1台端末の整備、校務系ネットワークのセキュリティ強化など校務DXに資する様々な整備を進めてきました。

今後、更なる校務DXを推進するにあたり、文部科学省の「GIGAスクール構想の下での校務DXについて」（令和5年3月8日付のGIGAスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議の提言）等で示されるもののうち、以下の項目が主な課題となっています。

（1）校務支援システムの更改（令和9年度予定）

- ・校務支援システムの利用等、校務処理の多くが職員室に設置された校務用端末に限定されており、教室や出張先等での校務処理が制限されています。校務処理に係るアクセスを職員室に限定することでセキュリティが維持されているとの側面もあることから、職員室以外での校務処理（ロケーションフリー）の実現については更なるセキュリティ強化が必要です。

- ・クラウド化にあたっては、システムの更改だけでなく、セキュリティ強化に係る予算措置も必要となります。

（2）学習系ネットワークの更改（時期未定）

- ・令和2年度に文部科学省のGIGAスクール構想に基づく1人1台端末の導入に合わせ、全校に無線ネットワークを整備しましたが、端末同様に老朽化が進んでおり、今後の環境維持が課題となっています。

- ・セキュリティの観点から、校務系と学習系のネットワークを分離しており、相互のデータ連携が煩雑となっています。校務系と学習系のネットワークを明確に分離することでセキュリティを担保してきた側面もあるため、校務系と学習系のネットワーク統合については更なるセキュリティ強化が必要です。

2. 課題の解決に向けて

（1）校務支援システムの更改（令和9年度予定）

- ・クラウド化やロケーションフリーの導入による業務効率化とそれに伴うセキュリティ上の課題等について、先進事例等も参考にしながら検討します。

- ・文部科学省の「GIGAスクール構想支援体制整備事業」（補助事業）の条件として、都道府県域での共同調達が前提とされているため、県の動向を注視しつつ、費用対効果等も考慮しながら調達手法について検討します。

(2) 学習系ネットワークの更改（時期未定）

- ・学習系ネットワークの更改については、その費用負担が大きいことから、国や県の補助事業等の動向に注視しながら更改時期について検討します。
- ・校務系と学習系のネットワーク統合による業務効率化とそれに伴うセキュリティ上の課題について、先進事例等も参考にしながら検討します。